

地域通貨 **第2回** フォーラム
～北見タウンミーティング～
◇地域通貨体感とお金の役割を考える◇

トーク 『これからの地域とお金
-東日本大震災を考えよう』
話し手:北海道大学大学院経済学研究科教授 **西部 忠**さん

シミュレーション
地域通貨ゲーム 『地域通貨を体験しよう!!』
コーディネーター:北海道大学大学院経済学研究科博士課程 **宮崎義久**さん
アドバイザー:上越教育大学大学院学校教育科講師 **吉田昌幸**さん

とき 3月29日(火) 午後1時30分より **どなたでも参加できます**
ところ 北見芸文ホール2F 大練習室 **無料**
申込 ☎(0157) **57-3023**
CTCきたみ中央まちづくり会

※この事業は「北見市まちづくりパワー支援事業」の補助を受けています。

北見 423.3.31.

地域通貨の疑似体験を通して、東日本大震災の被災地の流通、経済を考えるフォーラムが29日、北見芸術文化ホールで開かれた。参加者達は、限定した地域の内で通用する地域通貨にボランティア性とコミュニケーションが強く反映され、日常使っている法定通貨の数倍の速さで流れることなどを体験した。

地域通貨を

東日本大震災被災地復興に



地域通貨を使って模擬取引をする参加者達

北見で疑似体験フォーラム

企画したのは、市の都市計画マスタープラン策定にかかわった市民の任意団体「E.C.きたみ中央まちづくり会(中山篤嘉代表)」。地域通貨をテーマにした今回のフォーラムで、講師に北海道大学大学院経済学研究科教授の西郷忠氏らを招いた。

フォーラムでは地域通貨の性格などについて

参加者が感じるボランティア性のポイント

西郷教授から解説を受けた後、参加した約30人の市民が2人1組になって会社員や商店、企業などの役割を担いながら模擬地域を造り、地域通貨を使って取引や労働、消費などを疑似体験した。

地域通貨を導入すると、消費が促進され、

今人気の明るく楽しいリサイクルショップであなとも一緒に働いてみませんか?

●パート・アルバイトスタッフ

- 主な業務: 服・家庭用品等の買取・販売、家具類の搬出業務などを含むリサイクルショップ業務全般
- 年齢: 18歳~30歳位まで
- 待遇: 各種保険・経験や能力により昇給制度あり
- 勤務時間: 9:30~20:00の間でシフトによる交替制
- 給与: 与/時給700円(試用期間2ヶ月)

勤務地: **off house オフハウス北見南大通店**

面接日: **4月3日回** 電話連絡の上、履歴書持参ご来社下さい。

募集受付 **off house** オフハウス北見南大通店
<http://www.eco-mos.com/> 北見市とん田西町248番地(南大通沿い)
TEL.0157-32-7266 (担当: 森川)

募集

法定通貨よりも先に地域通貨を使う意識が強いため、通貨の流通速度が速い。疑似体験で食品工場の経営者を担当した人は「利益を増やそうという意識にはならず、地域通貨を消費に回す意識が生まれました」と話している。会社員役の参加者は「ボランティア精神が強まり、事業所にとっては人件費など資金繰りが楽になると感じました。地域通貨は早く使おうという意識にな

るので、どまりにくく、貧富の差が生まれにくいのでは」という。同会の中川代表は被災地の復興、地域を元気にする観点から、ボランティア性、コミュニケーション性を持つ地域通貨が役に立つのでは」と話している。(栗)

建 2354

入居者募集 (敷金なし)
 ■北見市北進町4丁目[6×4.5] 駐車場有
 家賃 **23,000円**
 ■北見市泉町4丁目[8×6] 駐車場有
 家賃 **27,000円**
 連絡先 **0157-36-5590**
 又は **090-6997-3535**

通貨 423.3.30

地域通貨の使い方学ぶ

北見 北大教授招きフォーラム

地域通貨によるコミュニティ再生を目指すCTCきたみ中央まちづくり会(中川篤嘉代表)は29日、北見芸術文化ホールでフォーラムを開き、ゲーム形式で地域通貨の使い方や効果などを学んだ。

同会は北見市都市計画マスタープラン策定委員会のメンバーが立ち上げたもので、フォーラムは昨年9月に続いて2回目。今回は北見大学経済学研究所の西部忠教授が「これ

からの地域とお金」と題して講演し、東日本大震災を例に「これからは自律分散と共助が必要。地域が経済社会の主体になる時代が来ている」と述べ、地域

通貨の可能性を強調した。

ゲームでは、参加者が会社員や農家、ハッカ工場などの役割を分担。労働の対価として国民通貨(円)や地域通貨を受け取り、通貨で商品やサービスを購入することなどを通じて、地域通貨を活用できる範囲や通貨が域内を循環する仕組みなどを体験した。



ゲーム形式で地域通貨の使い方学ぶ参加者

夏月日新報

2011年(平成23年)4月14日(木) 第180号

道東エリア版

地元の話や情報をピックアップ！
道東エリアのASA(朝日新聞販売所)がお届けします。

地域通貨の有効性とは

疑似体験で法定通貨との違い学ぶ

＝北見＝

地域通貨を疑似体験してお金の役割を考える「地域通貨フォーラム」が3月29日、北見市の北見芸術文化

ホールで開かれ、ゲーム形式で地域通貨の効果などを学んだ。

主催は、北見市都市計画



策定協議会のメンバー10人による「CTCきたみ中央まちづくり会」(中川篤嘉代表)。昨年9月に続いての開催で、市民ら23人が参加した。

地域通貨は法定通貨と違い、ある目的や地域のコミュニティ内

などの限られた地域で発行される貨幣で、循環させなければ価値がなくなる。そのメリットは、労働や消費などさまざまな取引による循環で、新たな人間関係や余剰労働力が生まれ、それが地域内で生かされて格差がなくなるといふ。

同フォーラムでは、北海道

道東大学大学院教授・西部忠さんが話し手となり「これからの地域とお金」東日本大震災を考えよう」をテーマにトークを行った。写真上。西部教授はスライドを使って地域通貨の有効性を解説した。この後、同大学院博士課程の宮崎義久さんと上越大学大学院講師の吉田昌幸さんの指導で地域通貨ゲーム「地域通貨を体験しよう！」を行い、参加者は地域貨幣の使い方の疑似体験をした。2人1組になった参加者は会社員や商店



主に扮し、労働の対価として受け取る法定通貨と地域通貨の違いを学んだ。写真下。

参加者の一人は「収入が途絶えたときにはボランティアをして、その対価として手にする地域通貨を早く使おうとする意識が生まれ、地域の活性化につながるのではないかと話した。また、同まちづくり会代表の中川さんは「東日本大震災など災害復興にも役立つ」と語った。